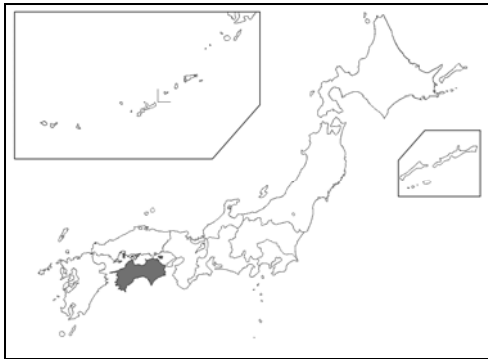


(9) 四国



四国地域では、景気は緩やかに持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きに一服感がみられる。
- ・ 雇用情勢は改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)。

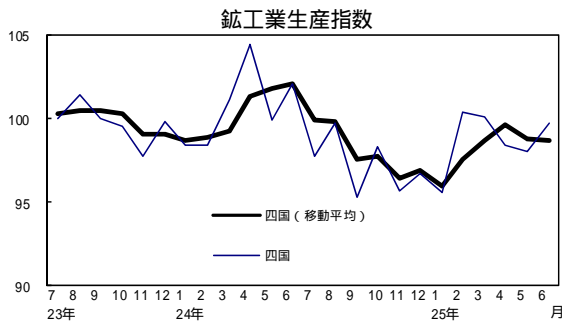
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 25 年 5 月)	今回 (平成 25 年 8 月)
鉱工業生産	持ち直しの動き	緩やかに持ち直し
個人消費	持ち直し	持ち直しの動きに一服感
雇用情勢	改善の動き	改善

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。

4～6月期には、化学は、医薬品やカプロラクタム、メタクリル樹脂の生産が減少した。電気機械は、スマートフォン向けの蓄電池や光電変換素子の生産が増加したこと等から増加した。食料品は、2月に投入されたレトルト食品の新商品の在庫が増加し生産調整を行ったこと等から減少した。パルプ・紙は、新聞巻取紙の在庫調整が進み、生産が増加したものの、横ばいで推移した。一般機械は、3月に金属工作・加工機械で国内向けの大型出荷があったことの反動がみられたものの、横ばいで推移した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		1～3 月期	4～6 月期	4月	5月	6月
化学	17.1	5.6	5.4	2.1	8.6	0.7
電気機械	15.4	6.8	9.7	8.4	2.4	5.1
食料品	13.6	2.9	3.9	4.4	0.0	3.3
パルプ・紙	11.8	0.5	0.1	2.1	1.4	0.7
一般機械	8.9	7.9	0.0	3.7	8.5	12.1
鉱工業	100.0	1.9	0.0	1.7	0.4	1.7

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

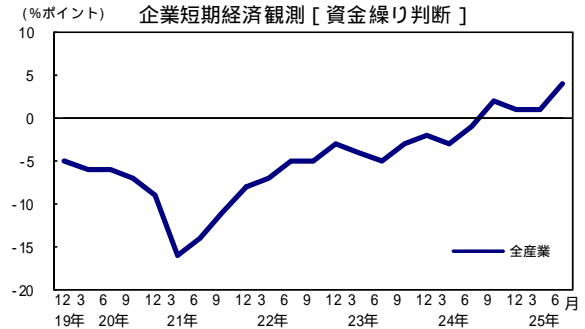
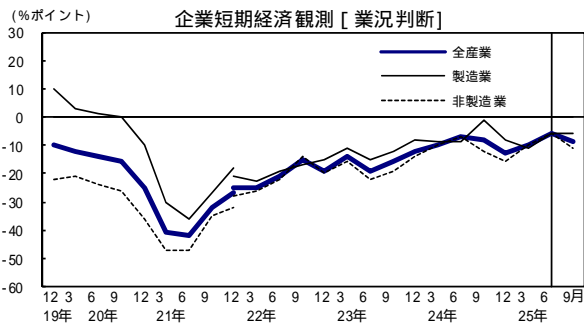
2. 4～6月期、6月は速報値。

(備考) 1. 17年=100、季節調整値、最新月は速報値。

2. 太線は後方3か月移動平均。

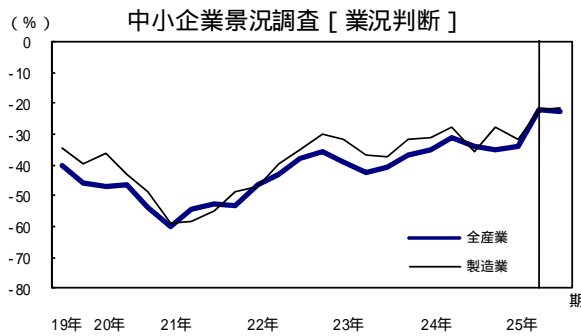
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が拡大している。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。25年9月は予測。
21年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
21年12月は新・旧基準を併記。

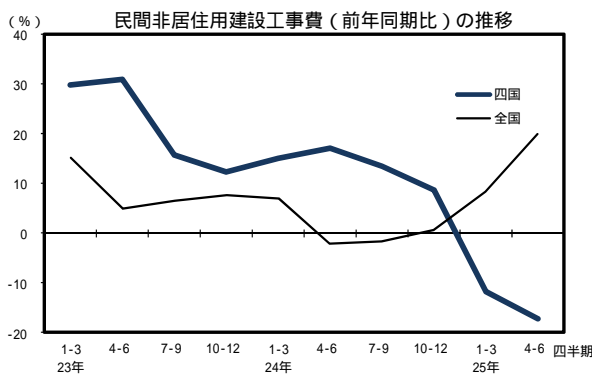


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。25年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]

「小売店からの発注が旺盛で、少しずつではあるが景気が持ち直しているように思われる。廃業する店の数より新規出店する小売店のほうが多く、市場が活性化しているようである(繊維工業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は大幅に減少している。



企業短期経済観測調査[設備投資(6月調査)]

(前年度比、%)

	24年度実績	25年度概
全産業	19.8(3.6)	3.9(4.0)
製造業	30.1(2.2)	5.7(16.4)
非製造業	4.9(5.1)	1.9(7.0)

(備考)()は前回(3月)調査比修正率。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きに一服感がみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

4月は前月比0.3%増、5月は同0.4%減、6月は同0.0%となった。

大型小売店販売額

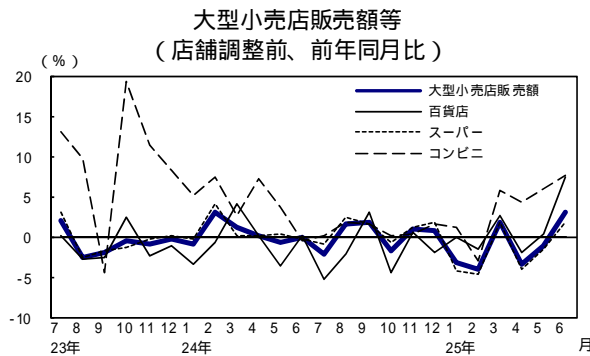
百貨店は、4月は、時計などの高額商品は好調であったものの、気温が低めに推移した影響で春物、初夏物衣料が低調だったこと等から前年を下回った。5月は、高額品や、中旬以降暖かくなり衣料品の売上が伸びたこと等から前年を上回った。6月は、夏のセールの前倒しにより衣料品の売上が好調であったことや、前年に比べ気温が高く推移したため日傘などの日焼け対策商品の売上が好調であったこと等から前年を上回った。

スーパーは、営業日数の減少や、低気温により衣料品や飲食料品の売上が低調だったこと等から前年を下回った。

景気ウォッチャー調査 (7月) [家計動向関連 (現状)]

四国地域の家計動向関連DIは、50.0となり前月に対し横ばいとなった。

「来客数はあまり変わらない。アベノミクスへの期待感はありながらも、地方にはまだ波及していない(都市型ホテル)」など、「変わらない」とする回答がみられた。

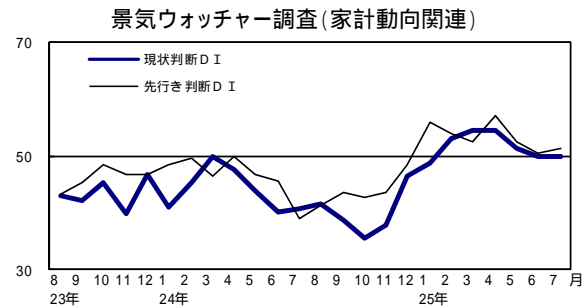
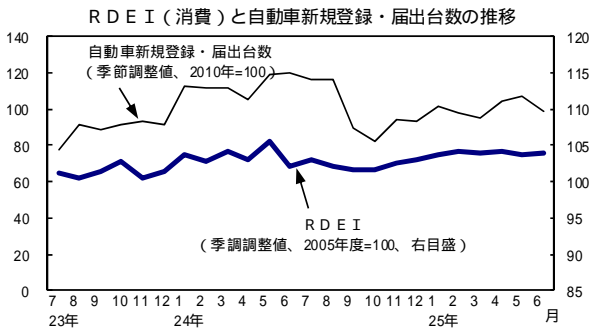


	25年4-6月	25年4月	5月	6月
RDEI (消費*1)	0.0	0.3	0.4	0.0
大型小売店(*2)	0.6	3.5	1.1	3.0
百貨店(*2)	1.9	1.9	0.4	7.5
スーパー(*2)	1.3	4.0	1.6	1.7
コンビニ(*2)	6.0	4.2	5.9	7.7
乗用車(*3)	10.2	9.7	17.3	16.0
(季節調整値)(*3)	5.5	3.0	7.8	1.6

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

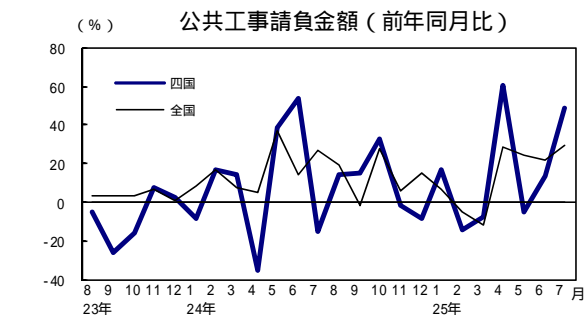
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

持家、貸家、分譲が前年を上回ったことから、大幅に増加している。

(3) 公共投資は25年度累計で見ると前年度を上回っている。

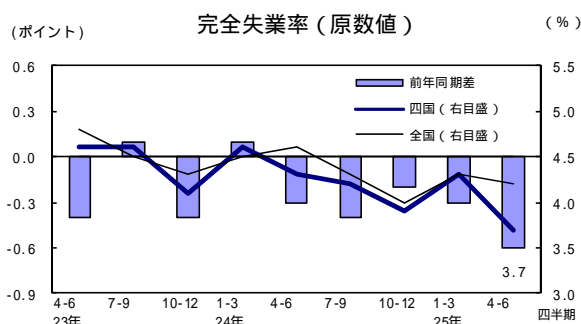
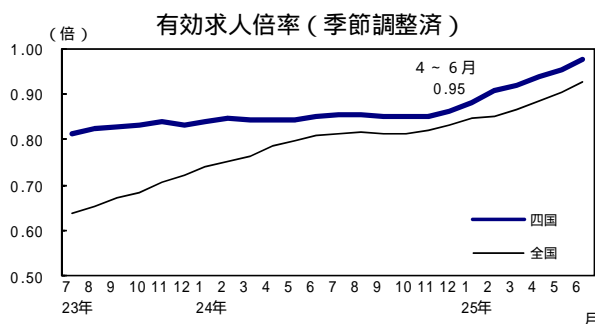


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (7月) [雇用関連 (現状)]

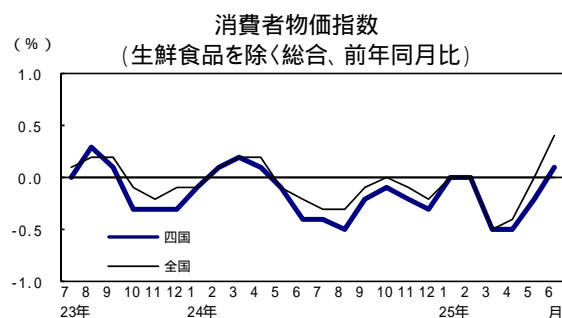
「人材の雇用に関して派遣の更新期間が幾分長く稼働できる状況が見受けられる。また、正規雇用を前提とした期間雇用も少しずつニーズが聞こえはじめた (人材派遣会社)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	24年7-9月	10-12月	25年1-3月	4-6月	25年7月
倒産件数	69	69	60	53	20
(前年比)	13.8	19.0	16.7	15.9	28.6
負債総額	194	156	102	123	36
(前年比)	22.3	30.2	27.7	11.4	35.8



景気ウォッチャー調査 (7月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・円安の効果により、中東での大口商談が増えている (一般機械器具製造業)。

<先行き>

- ・暑い夏であり季節商材はしっかりと動きが感じられる。週末の人出も安定して多く、瀬戸内国際芸術祭の反響も大きい。7月後半から秋にかけては数字が伸びると期待している (商店街)。

